

第4回 帯広市都市計画マスタープラン検討専門部会 会議録 要旨

日時：平成30年11月27日（火）15：00～16：40

場所：帯広市役所 10階 第2会議室

■会議次第

- 1 開会
- 2 都市建設部企画調整監あいさつ
- 3 専門部会長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 次期将来都市構造について
 - (2) その他
- 5 閉会

■出席者

委員：4名 事務局：7名

■委員からの意見等

委員からの意見等は、以下のとおりです。

○次期将来都市構造について

1) 3つの基軸について

- ・3つの基軸はそれぞれ性質の異なるもので、中でも外環軸は環境に配慮しなければならない特徴的な軸である。
- ・白樺通は、十勝・帯広らしい道路であり、生活を支える施設も多く、市民が日常的に生活するうえでの大事な軸である。
- ・工業団地で働いている人以外に、どのような人達が外環軸を使っているのか気になる。
- ・川西 IC より南側はバスがほとんどないので、車を利用するしかない。
- ・郊外に住んでいる人の話では、中心地は駐車場の数は多いが、小さくて使いにくい印象があり、買い物に行きづらく、駐車場の広い郊外型店舗に買い物に行くことが多いとのこと。
- ・帯広の人は、駐車場代やバス代を払ってまで買い物に行くという感覚があまりないので、郊外型店舗に行ってしまう傾向があるのではないかと。
- ・南地区や東地区の人たちは、近所のショッピングモールや大型書店などに多く出かけている印象がある。
- ・弥生通の国道38号～札内新道までは個人的には走行しやすいと感じているが、交通量が少ない印象があるので、何か利用しにくいと感じる要素があるかもしれない。
- ・次の世代に引き継いでいくうえで、補完軸を新たに加えて「帯広らしさ」を戦略的に進めていくことについて異論はない。

2) 5つのエリアについて

▶中心部エリア

- ・中心部の活力が弱まっている影響で、その周りの市街地 A エリアも魅力が薄れてきているように感じる。
- ・中心部エリアが活性されることで、市街地 A エリアも生きてくると思う。

- ・中心部は、第2合同庁舎建設や開広団地の再開発事業などにより機能的な面では高まってきたが、もう少し中心部に若者が集まるような魅力が欲しい。市の中心部を多くの人達が自由に利用しながら、人が集まるような中心部づくりが必要ではないかと感じる。
それによって、その周辺の市街地Aエリアの中に店も集まってくるのではないかと思う。
- ・駅北多目的広場や広小路の活性化の他、中心部エリアの歩道を利用して何かできれば良いと思う。
- ・広小路が活性化しないのはもったいない。上手く利用すれば人が集まるのではないか。広小路を使いたいと思っている若い人もたくさんいるように聞く。
- ・広小路の空き店舗を利用して何かしようと思っても、家賃が高くて借りることができないという話もある。
- ・空き店舗の所有者の中には、若い人に貸すと何か問題を起こすのではないかという心配をして、貸したくないという人もいるのではないか。
- ・チャレンジする場として、広小路は面白い場所だと思う。
- ・広小路の全てが一気に変わるというのは無理だとは思いますが、どこかの店が若者に場を提供するなど、変わることで他の店舗へも波及していくかもしれない。
- ・まちなかでのビジネスに関心を持っている学生はいる。
- ・ビジネス展開を学生に考えてもらうため、中小企業同友会と勉強会を始めたので、今後ビジネスへの進出を考える学生は出てくると思う。
- ・日本人は、道路や公園などの公共物は「勝手に使ってはいけないもの」という感覚があったと思うが、近年では「使ってなんぼ」という風潮になってきており、節度をもった使い方であれば、一時的な占用を許可して使わせるなど変わり始めてきている。
- ・一時的に道路の上に人工芝を敷いて、子供達の遊び場やカフェなどを設置し、終わったら片付けを行う。このようなことをすれば、広小路などの存在価値が改めて市民に理解されるのではないか。こうした社会実験を繰り返していけば、今までと違う価値が生まれてくるのではないか。
- ・使ってはいけないと市民が思い込んでいる場所を、行政が間に入って協議し、一時占用を認めて行動を起こしていくことが、まちを変える大きなエネルギーになるということを共有することが大事。
そのような事にチャレンジする場が中心部エリアではないか。

▶市街地Aエリア

- ・公園の整備が必要だと思う。
- ・エリア東部の生活道路は老朽化が進んでいる印象がある。
- ・エリア東部では、以前空き家が多く見られたが、近年では解体がすすみ、更地が増えていく。消費税の増税前に住宅が建っていくのではないか。
- ・商業施設が来るか出ていくかで環境が大きく変わってしまう。
商業施設の存在で生活環境が左右されないようにしていくべきではないか。
- ・本来、このエリアは中心部まで歩いて行けるエリアだと思うが、冬の歩道の除雪が悪く、歩きにくいので、結局車を使用して郊外型店舗に行っている。歩行者対策が必要。
- ・市街地Bエリアに比べて日中の家への出入りが多く、コミュニティが濃密な印象がある。
- ・普段の生活に変化を求めている高齢者は多いはず。
ちょっとした仕掛けでコミュニティの場が生まれるのではないか。
- ・困っている人がいる場所というのは、チャレンジできる場ではないかと思う。

▶市街地Bエリア

- ・ちょっとした集まりができる「まちの居間」のようなところが必要。
- ・高齢化が進んでくると、車を運転することに不安を覚えるようになるので、エリアの中で生活が完結できるようなまちづくりが必要ではないか。
- ・小さな店でもいいので、生活が成り立つようなものがあればいい。
- ・Bエリアの中でも、例えば大空団地と清流地域では状況が違うので、ひとくくりに課題をまとめるのが難しい。
- ・大空団地は高齢世帯が多く、スーパーも撤退し、今後どのように維持していくのかが気になる。

▶工業エリア

- ・働く人のために飲食できる場所が必要。
- ・飲食店の立地に係る規制を外したら良いと思う。
- ・雰囲気暗い。
- ・働く人にとって魅力ある場所であれば、就業者も増えると思う。
- ・食品加工業の分野で、もう少し民間と行政が連携した方が良いと思う。
食品加工業を工業団地に誘致しているところもある。
- ・道東の食の防災拠点になりうるのではないか。

▶市街化調整区域

- ・緑が多いというのは訪れる上でインセンティブになるので、現状のまま取り組みを進めていけば良いと思う。
- ・帯広の森は、スポーツ観戦やスポーツを行う場所として若者が利用する目的があるが、帯広の森以外では若者が利用する目的が見つからない。
- ・現在のマスタープランにおける「都市と農村の交流エリア」は、住みよいという印象がある。
- ・首都圏の人や農業とリンクしながら仕事したいという人達が移住する場所としては、交流エリアが適していると思う。
- ・就職説明会などでは、帯広に行ったことがないので、どのような状況なのか分からないという意見が多い。
- ・帯広で住むうえでの情報が不足しており、帯広で住もうと考えている人も不安に思っているのではないか。
- ・全国単位で見ると、ライフスタイルが多様化し、ワークライフバランスやクオリティオブライフといった「生活の質」を求める傾向が強まってきており、交流エリアは候補地の一つになりうる。
- ・交流エリアは、自然環境や田園、暮らしやすい環境など、帯広の良さを伝える発信の場になる。
- ・首都圏の郊外型住宅では、住宅だけでは生活を共有する場がないので、ピアノや手芸を教えることができる場所として住宅との併用を認める動きがある。
- ・帯広の良さとして、空気や水、食べ物がおいしいことなどが挙げられるが、こうした面を享受できるような移住空間があれば良いと思う。
- ・都会の人たちは地下鉄やバスでの移動に慣れているので、移住先にもそうした利便性を求める傾向がある。このため、移動の不便が解消されれば移住しやすいと思う。

- ・9月の北海道胆振東部地震に端を発した大停電などを契機に、防災性能を高める必要が出てきている。道東の防災の拠点として考えたとき、帯広市が適しているのではないかと思う。
- ・防災性を高めるための食料品の生産拠点としては、帯広のポテンシャルは高いと思う。

■その他

- ・次回、1月下旬頃を目途に開催する予定。
日程調整後、改めて開催日程についてお知らせする。

以上